CO·OP
三重の生協の
今を伝える
みえの虹
No.126
2021年1月
三重県生活協同組合連合会
〒514-0009　三重県津市羽所町379
TEL.059-228-9913　FAX.059-228-9915

小さなつながりから　大きなひろがりへ

2020年度はコロナウイルス感染症に始まり、そして終わるといったように、コロナウイルス感染症に振り回された1年でした。しかし、そのたいへんな状況の中から多くの学びも得ることがありました。特に、経営が厳しくなった会員生協への支援では、連帯と共助の精神が発揮され、会員生協が一段と結束し協力しました。まさに“小さなつながりから　大きなひろがりへ”と、実践した年となりました。

2021年はさらなる連帯とひろがりへと向かって、三重県生協連のSDGs推進宣言で掲げているように、「誰一人取り残さない」社会の実現を目指し、つながりや協同の力をより強い絆でつなぎ、「平和とよりよい生活」の実現のために取り組みをすすめていきます。

活動報告

「暮らしへの影響にかかわる調査」を実施しました

消費税ならびに、新型コロナウイルス感染症等による組合員の暮らしにでている影響を「暮らしへの影響に関わる調査」として2020年8月から9月にかけて、会員生協組合員を対象にアンケート調査をおこないました。その結果、会員生協組合員1,376人から回答が得られ、「暮らしへの影響に関わる調査報告書」として取りまとめました。

大学生やご高齢の方、小さなお子さんをお持ちの方、医療従事者の方などから幅広く状況をお聴きすることができました。新型コロナウイルス感染症への感染不安と、経済や雇用の維持などへの不安や、日々の様々な自粛生活がストレスを生み出し、広がっています。また多くの組合員が、新型コロナウイルス感染症への感染を抑えるワクチンの開発を期待する一方で、消費税の減税等による経済と家計の回復を期待しています。

消費者の暮らしが厳しさを増す中、組合員が願う「よりよいくらし」の実現のために、生活協同組合どうしの連帯と、行政や地域の方々との連携、協同組合間の協同で、組合員や県民の暮らしを守る必要があります。

私たちは三重県議会議員と県内選出の国会議員、三重県、消費者市民ネットワークみえの会員等へも、この調査報告書をお送りしました。

三重県生協連ホームページで
「暮らしへの影響にかかわる調査報告書」をご覧いただけます。

一人は万人のために　万人は一人のために

生活協同組合コープみえ
みえ医療福祉生活協同組合
三重県学校生活協同組合
三重大学生活協同組合
三重短期大学生活協同組合
三重県立看護大学生活協同組合
三重県労働者共済生活協同組合

活動報告

三重県議会会派と鈴木専務理事が懇談しました

三重県生協連は、三重県議会に社会的課題の解決に向けた要望書を提出し、県政に反映していただけるよう毎年、正副議長や各会派との懇談の機会を設けています。

11月20日、三重県議会公明党の議員と三重県生協連の鈴木専務理事が懇談し、県政要望を伝えました。主に「暮らしへの影響に関わる調査」からみえてきた、消費税、奨学金制度、生活支援、コロナウイルス感染症への対応について、また、三重県の高校生を対象に「成年年齢引き下げと契約に関する調査」を実施した結果からみえた、消費者教育の推進や、平和憲法について要望し、意見交流をしました。

成年年齢引き下げにともない、消費者教育は重要なことであると共感をいただきました。また、平和を願う想いや、生活者目線であることも同じであり、より良い暮らしのために意見を受け止め、県でできること、国でできること、市町でできることを要請していきたいと、応えていただきました。

三重県議会正副議長、他会派との懇談は、新型コロナウイルス感染症が再びひろがっていることもあり、書面にて要望書を提出しました。

活動報告

三重県「食の安全・安心研修会～家族の健康を守るために考えたい食生活」を開催しました

11月7日、三重県総合文化センターにて、三重県及び会員生協との共催で三重県「食の安全・安心研修会～家族の健康を守るために考えたい食生活」を三重短期大学生活科学科の駒田 亜衣准教授をお迎えし開催しました。新型コロナウイルス感染症の拡散防止のため、対面とオンライン参加で、68名の組合員や県民が参加しました。また、三重テレビ放送局等マスコミの取材もありました。

三重県の健康・栄養調査や、講師が県民の食生活等を調査されたデータを基に、塩分の摂取量や野菜の摂取量などを経年変化等も交え講話をいただきました。三重県が示す健康づくり基本計画の目標から見ると塩分をもう少し控えること、一日350gの野菜を摂取すること、果物は1日1回、カルシウムの摂取も大切である等と、ご教授いただきました。大切な家族が生活習慣病にならないため、そして健康寿命を延伸してくために、日頃の食生活を考え直すきっかけとなる研修会になりました。

活動報告

学習会「食品廃棄の問題について～持続可能な地域社会づくりに向けて～」を開催しました

2020年11月21日、三重県教育文化会館で「食品廃棄の問題について～持続可能な地域社会づくりに向けて～」と題し、「食品ロス」をテーマに学習会を開催しました。講師に三重県環境情報センター前センター長の佐野正和氏をお迎えし、食品廃棄と地球環境、SDGsとエシカル消費などについて、ご講演をいただきました。参加者には、会場での受講とリモート(ZOOM)での参加を選択していただき会員生協等から43名が参加しました。

「地球環境の問題を生み出したのは私たち人間です。持続可能な地域社会づくりのために、食品廃棄の問題解決に向けて取り組むことが必要であり、私たちのくらしが環境問題に直結していることから、私たちの行動によって世界を変えていくことにつながります。」

SDGsは、地球環境を守る最後のチャンスといわれています。“つながる、つなぐ、つなげる”を大切に、消費者一人ひとりが「食品ロス」の削減のための暮らし方と工夫が大切という気づきをいただきました。

活動報告

三重大学にて2020年度の「協同組合論」を開講しています

三重大学人文学部特殊講義「協同組合論」(全15講義)が10月より始りました。次世代を担う学生に社会・地域と人のつながりをはじめとした協同と組合への理解を広げます。また、職業選択の機会となるような講義を目指しています。

5年目となる2020年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で受講生はオンラインでの受講となっています。12月21日には「生協運動の現在と未来」と題して、日本生活協同組合連合会 本田英一会長に、ご講義いただき、1月18日はシンポジウム「安心してくらせる地域づくりと生協～組合員と地域住民とともに」を開講しました。1月25日は「協同組合間協同」をテーマに、日本協同組合連携機構の前田健喜氏にご講義いただきます。「協同組合論」の講義速報を三重県生協連のホームページでもご覧いただけます。

第12講義目「生協運動の現在と未来」講義速報

→ https://miekenren.jp/rijikai/2020/2866.html

お知らせ

核兵器禁止条約2021年1月発効へ！

2020年10月25日核兵器の保有や使用を全面的に禁ずる核兵器禁止条約が、発効に必要な50カ国に達しました。2021年1月22日に、史上初めて核兵器を非人道的で違法とする国際条約が発効されます。

三重県生協連は、核兵器のない平和な社会の実現に向けて、日本をはじめすべての国が核兵器禁止条約に批准することを願い、三重県原爆被災者の会、原水爆禁止三重県協議会と共にこれからも活動を続けていきます。

核兵器禁止条約発効記念のつどい を開催します。

～条約発効を祝すとともに、核廃絶に向けて、みんなの気持ちを一つに～

人類史的な快挙の条約発効を祝すとともに、核廃絶にむけてみんなの気持ちを一つにしていくことを目的に、ヒバクシャ国際署名をすすめる三重県民の会、三重県原爆被災者の会、原水爆禁止三重県協議会、三重県生活協同組合連合会の主催で、公益財団法人第五福竜丸平和協会、(株)ゴーリキのご協力のもと開催します。当日はコロナ感染予防対策で、対面と合わせて、オンライン(ZOOM)での開催になります。

内　容

1. 「2011年少年少女ヒロシマの旅」動画上映
2. 講演「核兵器禁止条約で変える世界」
   講師　川田　忠明氏(日本原水協常任理事・国際問題専門家)
3. 第五福竜丸が語るメッセージ
   安田　和也氏((公財)第五福竜丸平和協会事務局長)
4. 「2010年少年少女ヒロシマの旅」をふりかえり今思うこと
   (コープみえ組合員・大学生)
5. 共同声明
6. 行動提起

お知らせ

日本学術会議新会員候補任命拒否に対する会長声明を発表しました

三重県生協連では、日本学術会議新会員候補任命拒否に対する会長声明を発表しました。内容については三重県生協連のホームページでご覧いただけます。

→ https://miekenren.jp/rijikai/2020/2881.html

みんなで取り組む SDGs

三重県学校生活協同組合（学生協）は、県内の学校や教育関係機関で働く人たちの豊かで安心できるくらしをつくるため、組織された協同組合です。

学生協の共同購入の商品の中には、「地域や環境、社会や人々のことを考えたエシカルな商品」が含まれています。

右の写真は、総代会会場に展示した「エシカル消費」に関する説明と実際の商品です。展示を見た組合員が「アッ！これもエシカルな商品だったんだ」と気づき、その後も「エシカル消費」を意識してご利用いただきたいと、とりくみました。このとりくみ以降、「エシカル消費」の冊子配布や、支部での学習会など、知っていただく機会も増えてきました。

学生協は今後も「エシカル消費」の利用がすすむよう、商品の選定をはじめ、より分かりやすい案内や提案など、積極的なとりくみを継続していきます。

三重県生活協同組合連合会会長理事　上野達彦　（連載）

余裕の笑顔

木内幸男さん。久方ぶりにこのお名前に出会った。毎日新聞（2020年11月25日朝刊）紙上である。私は木内さんと面識はいままでなかった。しかし、無類の高校野球ファンを自認している私が、木内幸男の名前を忘れるはずがなく、その記事に食い入った。

木内さんは、茨城県の取手二高、常総学院高野球部監督を勤めた人物であり、記事は木内さんの訃報と評伝についてであった。木内さんを偲ぶこの記事のなかで、いくつかの木内人生録がさりげなく示されている。紹介しておきたい。

その一は、う回路を用意しておけ、ピンチに出会ったら、まともにこれに立ち向かうのではない方法を探れということである。「大事な一戦で見せる意表をつく継投やスクイズ」、「エースが9回に追いつかれると、エースを一度外野に下げ、冷静さを取り戻させてから再びマウンドに戻し」、初の甲子園制覇に結びつけたことなどである。

もう一つは、気持ちに余裕を持たせるために、いつも選手たちの心に笑みをもたせた。

「三振しても、エラーしても選手たちは笑っている」ことで、監督への信頼感が増してくる。

もっともこれだけでは、好々爺の域をでない。木内さんが指導者であり、優れた司令塔としての役割を果たすのは、「選手の個性を見抜く観察眼と、戦況を冷静に判断する洞察力」がプラスされているからである。

最近、わが国とアメリカなどいくつかの国において国家指導者が交代した。その言動は直接国民の生活に一体感を持ち得るものが多く、指導者としての力量が問われることであろう。このことは、協同組合もしかりである。私たちが木内さんのような人物像をもった指導者を探り当てることに希望を抱きたい。

おしらせ

役職員研修

①　「経営分析の基礎」

日　時：2021年1月18日（月）10:00～12:00
　　＊Web会議（ZOOM）にて実施
講　師：日本生活協同組合連合会　経理部
募　集：会員生協役職員
内　容：決算関係書類の見方、
　　主な経営指標の計算式と指標の意味（解説）等

②　研修会「生協法の基礎」

日　時：2021年1月28日（木）9:30～12:30
　　＊Web会議（ZOOM）にて実施
講　師：日本生活協同組合連合会　法務部
募　集：会員生協役職員
内　容：生協と生協法・定款との関係、生協の事業、組合員との関係、
　　組織運営に関する基本的な規定等

「3.20 さようなら 原発三重パレード 2021」に賛同団体として参加します。

日　時：2021年3月20日（土）
　　12:45～15:30
場　所：津市お城西公園
内　容：集会（12:45～14:00）、
　　パレード（14:00～15:30）

＊さようなら原発三重パレードは、2011年の福島第一原発での事故をきっかけに、脱原発を求める方々が津市に集結し、2013年から毎年3月に集会とパレードを開催しています。三重県生協連は、2013年から「さようなら原発三重パレード」に賛同し、実行委員会に参加しています。